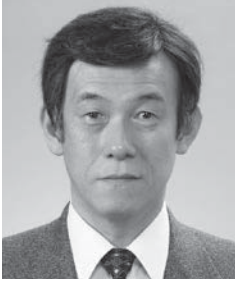


## 巻頭言

## インターネットワールドの誕生と膨張

家木 俊温



20世紀後半、世界中のサーバやPC等のコンピュータ機器を接続するインターネットが登場しました。コンピュータ機器の内部には、無数のプログラムやデータ、コンテンツがあり、機器の利用者にさまざまなサービスを提供しています。利用者はPCを操作して、銀行サービス、ショッピング、株式売買、広告閲覧、ニュース閲覧、遠隔授業、メールの送受信、オンラインゲーム、映画鑑賞などができます。サービスを提供する企業は、これによってビジネスを行うことができます。また、行政機関は、公共サービスを提供できます。つまり、企業、学校、行政機関などがサービスを提供し、利用者がこれを享受できる仮想空間であるインターネットワールドが誕生しています。ここで、その歴史を振りかえるとともに、今後についてかんがえてみます。

最初のコンピュータは1951年に登場し、ホストコンピュータと呼ばれました。その後、コンピュータは、個人が所有し事務処理を行うクライアントPCと、多くの情報を蓄積し、情報提供や個人向けサービスを提供するサーバに分かれました。

いっぽう、最初のネットワークは、1876年に電話機が発明され相互に接続された時に誕生しました。その機能は音声情報を伝達する伝送路でした。やがて、コンピュータ機器を接続するARPANETが1969年に登場しました。当初、このネットワークは、企業、学校、行政機関内部の機器を接続し、LANと呼ばれました。このネットワークは、組織内の情報の蓄積・共有、情報の活用の効率を飛躍的に高め、オフィス革命をもたらしました。

現在、LANは企業のみならず各家庭にも浸透し、これらが相互接続してインターネットを形成しています。ネットワークとしては、無線ネットワークも参加しています。コンピュータ機器としては、サーバ、PCに加えて、携帯電話、スマートフォンが接続されており、将来は情報家電や自動車が接続するといわれています。インターネットワールドは急速に膨張しており、ますます多様で便利なサービスが提供されるようになります。多くの利用者がネットワークサービス中毒にはまり、リアルな世界の活動を減らす恐れがあります。人間は、運動能力、会話能力などの動物としての機能が退化する恐れがあります。

また、セキュリティに目を向けると、インターネットワールドには個人情報など多くの情報が存在しており、大規模な情報漏えいの恐れがあります。世界中に広がった金融ネットワークや国家の行政ネットワークが、サイバーテロリストによって攻撃され大事件となる可能性もあります。インターネットワールドの膨張は、人類に多くの利便性や楽しみを与える一方、対応を誤ると非常な害をもたらします。これからの情報社会に生きる一人ひとりがこのことを理解することが肝要です。今も、インターネットワールドは、コンピュータ機器、プログラム、データを吸収し、膨張を続けているのです。

IEKI Toshiharu  
東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 教授 (執筆時点)